



取水口の神田頭首工



県社林内を流れる疏水

information

城原井路は、今から344年前の寛文元年(1661)、岡藩主中川久清公が岡山藩より熊澤蕃山を招請し井路開削の運びとなった。

原始的な施工法の上、土質は表土黒褐色の火山灰土や軟岩のため多くの難工事や悪条件を乗り越え寛文3年竣工したと言われる。

取水口の神田頭首工は、大正11年(1922年)それまでの板堰から練積石垣溢流式(石垣を積んで、目塗りをして水が上から溢れ流れる方式)に改修し、天然の岩盤をくり抜き、通称「はなぐり水門」を築いた。この頭首工は、稲葉川と久住川の合流点より200m下流に位置する。

本疏水は、城原井路土地改良区(水土里ネット城原井路)が管理しており、総延長は130.7km、線7.7km・支排水路109km・熊地井路14km・分水1300箇所となっている。



お問い合わせ： 竹田市大字城原1711-7
城原井路土地改良区
TEL0974-66-2004 (FAX共通)